

論文要旨

所属ゼミ	高木 晴夫 研究会	学籍番号	80730063	氏名	阿比野 貴
(論文題名)					
<p style="text-align: center;">上司による部下の自律的行動の誘発 — 先行研究成果の再現性の確認と汎用性の検討 — How can general managers induce junior staff to behave autonomously? -examination of the validity and generality of an existing research result-</p>					
(内容の要旨)					
<p>『部下を自律的に動かすためには、何が必要なのか?』</p> <p>本論文では、「ゼネラルマネジャーによる部下の自律的行動の誘発」(佐藤剛, 慶應義塾大学大学院経営管理研究科, 2003)を先行研究と位置づけ, 当該論文における理論をフレームワーク化する。その上で, 当該論文の研究限界である, 限られた業界・企業における事例なのか, 汎用性を持った事例なのかを, 調査対象組織を拡大し, 定量的に調査することで検証する。</p> <p>部下の自律的行動の誘発に必要な項目として, 先行研究では「部下の社会的覚醒」と「心理的アフォーダンスの提示」の2因子が得られた。本研究では, 部下を自律的に動かすために, この2因子が有効な因子であるか, 調査対象業界を広げ, 再現性を確認する。この2因子を先行研究で導き出された13の要素に分解し, それらの要素レベルから, 部下の自律的行動を促進させることとの関連性を分析する。</p> <p>調査対象組織は, 先行研究で行われた製造業の他, サービス業を含めた民間企業全般, さらに, 市民サービスという観点から行政組織についても調査した。調査対象者は, 複数の部下を抱え, 指導する立場にある職位(役員職, 部長職, 課長職, 係長職)に在職, もしくは過去に在職していた者を対象とした。その結果, 255サンプル得られ, これらの分析を行なった。</p> <p>本論文において, 全調査結果から部下を自律的に動かすために有効な2因子の再現性が認められた。さらにフレームワークの汎用性を検証し, 業界・企業や職位によって特徴が見受けられた。この検証・分析結果から, 部下を自律的に動かすために, 何が必要なのかを示すとともに, 部下を抱える方に対する提言をまとめる。</p>					